

県内の遺跡8 こ せ が さわ 小瀬ヶ沢洞窟

国 指 定 昭和57年12月3日

所 在 地 東蒲原郡上川村大字神谷かみや

小瀬ヶ沢洞窟は、室谷川むろやと小瀬ヶ沢川との合流点から北西に約400m、小瀬ヶ沢山の南急斜面上に位置します。縄文時代のはじめ頃の遺跡で、昭和33、34年、日本における最古の土器を確認するために、中村孝三郎を中心とした長岡市立科学博物館考古学研究室が発掘調査を行いました。その結果、土器1,370点、石器1万1,928点、骨片241点（内3点は尖頭器せんとうき註1）もの遺物が出土しました。このうち土器は、縄文時代草創期そうそうき註2の土器様式のほとんどを含んでいて、その後の研究の指標の一つとなりました。石器は尖頭器や石鏃せきぞく註3が多量に含まれており、当時の狩猟具の比重の高さをうかがうことができるものでした。小瀬ヶ沢洞窟は、希少価値の高い草創期の遺物が多量かつ多様に出土した点で、当時の生活を知るうえで非常に重要な遺跡であるといえます。



あしがき

雪が溶け、スキー靴にさよならを告げるとき、発掘調査が始まります。「発掘調査一覧」によると、昨年は県内で248もの遺跡が調査されました。今年は何れくらいになるのでしょうか。タイヤをはきかえて行きます。私たちの祖先が積み上げてきた歴史の重みを感じつつ。誠心誠意励みたいと思います。そのことが新たなる知見を与え、未来を約束してくれることと信じて。(ミ)

- 註1 槍先に用いられたとされる石器（註の尖頭器は骨片でできている）
 註2 土器が使われ始めた、約1万2,000年前～9,000年前をさす
 註3 矢の先端につけて使う石器（矢じり）

埋文にいがた No.10

発 行 新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒951 新潟市一番堀通町5923番地46
 TEL (025) 223-5642
 FAX (025) 228-1762
 印 刷 有限会社 双葉印刷